

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society

NO.14

第44回大会開催によせて

大会準備委員会委員長 宮腰 英一

日本比較教育学会第44回大会は、本年6月28、29日に東北大学で開催いたします。前回東北大学教育学部で開催してから9年が経過しました。この間、学会の研究発表の質・量共に充実してきており、今回は発表会場数が大幅に増えることが予想されるため、国際文化研究科や高等教育開発推進センターが所属する「川内北キャンパス」の講義棟を使用いたします。

9年前に比べ、全国各地から仙台までのアクセスは格段と良くなりました。東北・秋田新幹線「はやて・こまち」が運行してから、東京 - 仙台間は片道1時間半ほどです。また仙台空港アクセス鉄道も開通し、仙台空港駅 - JR仙台駅間は、快速で17分、普通でも20数分で移動が可能となり、大変便利になりました。

第44回大会では、6月27日(金)に紀要編集委員会、常任理事会、全国理事会が開かれます。翌28日(土)、29日(日)の日程は次の通りとなります。

6月28日(土)午前：自由研究発表、午後：課題研究・総会・懇親会

6月29日(日)午前：自由研究発表、午後：公開シンポジウム・ラウンドテーブル
公開シンポジウムとして、高等教育ラーニングアウトカムの質保証に関するテーマを予定しています。また課題研究としては、教育開発における参加・アイデンティティに関するテーマと、義務教育の機能変容に関する国際比較に関するテーマを企画しています。

大会準備委員会一同、皆様のご来仙を心よりお待ちしております。

第44回大会のご案内

2008年度の第44回大会は、東北大学で以下の要領で開催されることになりました。

多数の会員の皆様からご参加いただきますようご案内申し上げます。

日 程: 2008年6月28日(土)、29日(日)

会 場: 東北大学川内北キャンパス(国際文化研究科のA棟、B棟、マルチメディア教育研究棟)

連絡先: 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1

東北大学大学院教育学研究科

日本比較教育学会 第44回大会準備委員会事務局

Tel&Fax: 022-795-6129(小川佳万), 022-795-3755(清水禎文)

E-mail: jces44@sed.tohoku.ac.jp (学会ホームページでも大会案内をご覧頂けます。)

香港大学教育学部比較教育学研究センター

センター長 マーク・メイソン



香港大学教育学部比較教育学研究センター (The Comparative Education Research Centre, CERC) は 1994 年に創設されました。CERC は、スプリングー社と共同で発行している叢書と比較教育学分野における研究サポートやその他の貢献によって、最もよく知られています。*Comparative Education Review* のエディターであるデビッド・ポスト氏の言によると「CERC は比較教育学研究における世界で最も重要な出版機関の一つ」となっています。

『CERC 比較教育学研究叢書』(The CERC Studies in Comparative Education Series) は、センターによる最重要の出版物です。この叢書は 1997 年に当時センター長であったマーク・ブレイ教授によって開始されました。その目的は比較教育学、国際教育、教育開発の分野における世界的に高い質の研究を出版することでしたが、特にアジアの声を大きくすることにも重きを置きました。叢書においては、ハロルド・ノア、マックス・エクスタイン、ネビル・ポスルスウェイト、フィリップ・アルトバック、マーク・ブレイ、W.O.リー、顧明遠、ルース・ヘイホーなどの編著書が軸となっています。出版の第一の基準は研究の質であり、それは厳格なレビューと編集によって保証されていますが、これまでに出版された書物の質によって、現在ではこの叢書は比較教育学分野におけるグローバル・リーダーとして認められています。

これまで CERC は、以下のような研究プロジェクトとコンサルティングに取り組んできました。「ブータンの教師に対する研究プログラム」カリフォルニア大学との協同による教育改革における集権化と分権化についてのワークショップ「中国の若手研究者のための研究方法論ワークショップ」マカオの高等教育に関するレビュー「中国甘肅省の基礎教育プロジェクトへの参加」「ユネスコ、ユニセフ、カンボジア教育省との協同によるカンボジアにおける公的学校教育

における私的コストに関する研究」「東欧、中欧における影の教育システム研究」「ベトナム国家教育審議会に対する高等教育改革についての助言」「ユネスコ統計局に対するアジアにおける教育的公平性についての助言」「ハワイ大学東西センターの 2020 年の教育のための国際フォーラム と関わってのグローバル化するアジア太平洋地域の教育におけるリーダーシップ・革新・開発に関する研究ワークショップ」「ユネスコの基礎教育の操作的定義についてのコンサルテーションへのハイレベルな参加」「児童労働の削減、公私パートナーシップ、統合的サービス提供などの領域における世界銀行、合衆国労働省へのコンサルティング」

また、CERC はアジア比較教育学会に対して研究上のサポートを提供してきました。昨年、香港大学でアジア比較教育学会と香港比較教育学会との合同大会を開催したことは特筆すべきことです。同様に CERC は世界比較教育学会に対しても価値ある貢献を行ってきました。マーク・ブレイ教授は世界比較教育学会の事務局長と会長を務めましたが、その間事務局がセンターに置かれました。現在でも、CERC の HP (<http://www.hku.hk/cerc/>) は、世界中の比較教育学関係のコンファレンスについての情報を提供しています。センターが発行しているニュースレター (CERCular) もこの HP で入手できます。

こうした CERC の活動は、香港大学によって、大学の戦略的発展のためのトップ 21 の研究テーマの一つとして比較教育学が指定されたことによっても認められましたが、それは比較教育学研究の発展のためにリーダーシップを発揮したブレイ教授への賛辞でもありました。

お知らせ

『比較国際教育事典』(仮称) 調査検討委員会設置のお知らせ

日本比較教育学会では、学会の事業として昭和 55 年に「増補改訂・世界教育事典」を刊行しました。しかし、それから既に四半世紀が経過し、日本比較教育学会の新事業として、比較国際教育の領域に関わる新たな事典を発行することが望ましいとの認識に基づき、昨年度から常任理事会において、刊行の可能性について検討してきました。

その結果、平成 19 年 9 月 15 日開催の常任理事会において、編集委員会の正式発足に向けての準備作業を行うための調査検討委員会の組織・任務についての案を作成し、平成 19 年 11 月の理事会(書面会議)において承認されました。これを受けて平成 20 年 2 月 20 日開催の常任時理解において、「比較国際教育事典」(仮称)調査検討委員会を正式に設置しました。

調査検討委員会の組織・任務は下記に示されるものですが、平成 21 年 6 月までに、具体的な様式(媒体:紙、CD、インターネット)、大項目・小項目の編集方針、エディター・サブエディターの選出、また、中国、韓国、台湾の比較教育学会との協働の可能性等を検討し、事典刊行の概要について方針を決定することとなっています。それを受けて平成 21 年 6 月に、事典編集委員会を発足させる予定となっています。

「比較国際教育事典」(仮称)調査検討委員会
〔組織〕

委員長:望田研吾

委員:大塚豊、窪田眞二、杉本均、宮腰英一
事務局長:竹熊尚夫

〔任務〕事典の規模、様式、媒体、予算、項目の選定方針、エディター等の編集方式、編纂スケジュール(開始時期・完成時期)、編集委員会の構成等の検討

国際交流委員会 報告とご案内

1. 比較教育学に資する国際交流情報の提供

昨 11 月より学会 HP の「国際交流委員会のページ」がリニューアルされました。引き続き、国際会議情報その他を載せてまいります。また、会員の関係するイベントの掲示板としても大いにご利用いただければ幸いです。

2. 学会大会での、フィールド調査の経験交流 第 43 回大会(筑波大学・2007.6)では、会場

のスペースを活かして、以下の展示を行い、好評でした。来る第 44 回大会(東北大学)でも、ぜひこの試みを継続したいと考えております。



* 金龍哲会員 「中国モリ族の母系社会」(パネル写真展示)



* 北村友人会員 「院生に対する海外フィールド調査研修 名古屋大学カンボジア調査の事例」(スライドショー)

3. 研究者の招聘・派遣について

(1) 今期本委員会の 3 年間の活動の最後に、第 44 回大会に海外からの研究者を 1 名お招きする予定です。大会ではパネリストとして会員と交流していただくことを準備委員会と協議中です。

(2) JCES は一昨年より台湾教育部主催の「台湾研究短期フェロー」プログラム(3 週間以内)の提携学会のひとつに選ばれ、国際交流委員会がその連絡仲介を行っております。2007 年度には、山崎直也会員が「台湾における進学主義に関する文献調査」を実施いたしました。今後新たな募集のあった際には、HP でも広報いたしますので、ご留意ください。

(以上へのお問合せ・お申し出等は、国際交流委員会・一見 mariko@nier.go.jp まで。2 の大会での展示発表ご希望の場合は「大会案内」もご覧ください。)(文責・一見真理子)

お知らせ

紀要編集委員会からのお知らせ

紀要第 36 号を近藤副委員長の責任編集によって所定の時期(2007 年 1 月)に刊行することができ、すでに会員諸氏のお手許にお届けしました。目下、編集委員会では今期の委員会の任務としては最終号になる第 37 号の編集作業を鋭意進めています。次号では特集テーマとして「対外言語政策」を取り上げ、各国が自国言語の対外的な普及活動をいかに展開しているかに関する諸論考を掲載することになっています。ご期待ください。ここまですべての年 2 回発行の原則を崩すことなく進んで来て、投稿要領もほぼ定着し、編集の手順もようやく標準化してきた感がありますが、有終の美を飾って次期委員会に引き継ぐことができるように編集委員一同、気を引き締めて取り組みたいと思っています。

なお、次期委員会のもとでも、自由投稿論文の締め切り日は変更がないものと考えられます。その場合、第 38 号の投稿締め切りは 7 月 20 日です。次の大会開催から余り期間がありません。大会での自由研究発表をもとに投稿をご予定の会員におかれましては、早めの準備をお勧めします。また、第 38 号の自由投稿論文の送付先は、次期の委員長宛になります。学会ホームページ上にできるだけ早く新しい宛先を載せるようにしますが、郵送前には必ず一度ご確認ください。今期の委員会からのお知らせとしては、いささか僭越であることを承知の上で、一言申し添えます。

(編集委員長 大塚 豊)

新入会員

(2007 年 9 月 ~ 2008 年 2 月、入会申込み順)

松本 幸敏(社団法人日本ユネスコ協会連盟 / 早稲田大学大学院生)

鈴木 尚子(徳島大学)

李 仁子(東北大学大学院)

西向堅香子(Institute of Education, University of London)

山口しのぶ(東京工業大学)

蔣 莉(広島大学大学院生)

谷口 和也(東北大学大学院)

何 京玉(広島大学大学院生)

董 怡汝(愛知学院大学)

松尾 麻理(慶応義塾大学大学院生)

谷口 利律(早稲田大学大学院生)

金子 奈央(九州大学大学院生)

石森 広美(東北大学大学院生)

(2008 年 2 月 17 日現在の会員数 902 名)

事務局連絡

本学会事務局は現在九州大学に置かれていますが、大会総会以降、次期事務局へと引き継ぎ、7 ~ 8 月にかけて完全移転を予定しています。次回 9 月のニューズレターでは新住所等をご連絡いたしますが、それまでは郵便物等の混乱が見込まれます。

東北大学大会でもお知らせいたしますが、決定され次第、学会ホームページでも掲載いたしますのでご確認ください。

会費納入のお願い

年会費未納の方は納入にご協力をお願い致します。通常会員 10,000 円、学生会員 6,000 円です。紀要は年 2 回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3 年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕 00820-6-16161

日本比較教育学会事務局

〔銀行口座〕福岡銀行箱崎支店

普通 2102191

日本比較教育学会 一般会計

銀行振り込みにより納入される方は、入金の際に事務局までご一報下さいますよう、お願い申し上げます。

日本比較教育学会事務局
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門
Tel&Fax (092) 632 - 8426
E-mail jces-edu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
http://www.soc.nii.ac.jp/jces/

